

関係各位

2015年7月28日
ヴイストーン株式会社

「Sota(ソータ)」、日本科学未来館にて実証実験開始

～ Sota(ソータ)とのコミュニケーション体験を来館者に提供 ～

ヴイストーン株式会社（大阪市西淀川区、代表取締役：大和信夫）は、日本科学未来館と共同で、コミュニケーションロボット「Sota（ソータ）」による実証実験を2015年8月1日より8月31日までの期間に実施します。日本科学未来館を訪れる多くの来館者にSota（ソータ）とのコミュニケーション体験を提供することにより、コミュニケーションロボットに求められる技術やノウハウの検証、課題の抽出などを、これまでにない規模で実施することとなります。



コミュニケーションロボット「Sota（ソータ）」

① コミュニケーションロボット「Sota（ソータ）」

「Sota（ソータ）」は、戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究（ERATO）の研究プロジェクト「石黒共生ヒューマンロボットインタラクションプロジェクト」によって得られた成果を元に開発された、テーブルトップ型コミュニケーションロボットです。

CPUにIntel(R) EdisonもしくはRaspberry Piを搭載し、高い処理能力と柔軟なネットワーク機能、開発の自由度などを備えた、コミュニケーションロボットとして最適な構成となっています。ロボットクリエイターの高橋智隆氏による親しみやすいデザインにより、一般家庭への広い普及を目指したものとなっています。

今回の実証実験を実施するにあたり、ヴイストーン株式会社では、NTT サービスエボリューション研究所が開発した完全クラウド対応型デバイス連携制御技術と、NTT メディアインテリジェンス研究所が開発した音声認識・対話制御・音声合成技術、および収集対象の音声だけを確実に捉える集音技術を搭載し、さらに株式会社NTT データの持つクラウドロボティクス基盤と接続することによって、これまでにない高度なコミュニケーション機能を実現したSota（ソータ）を、実証実験用機体として提供します。

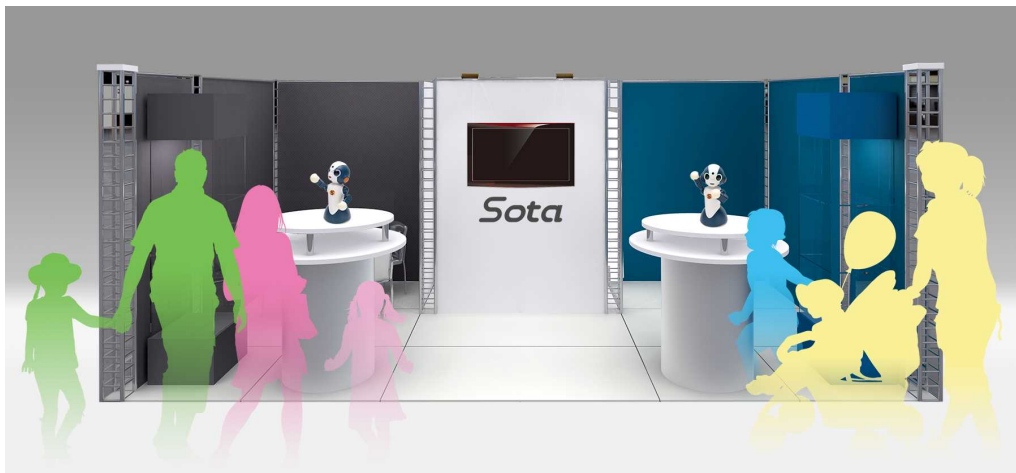
② 日本科学未来館での実施について

日本科学未来館での実証実験では、Sota（ソータ）が来館者との対話を通して、展示のアンケートを行います。ロボットとの対話という希少性がアンケートの実施結果にどのように影響するかも検証する予定です。

③ ネットワーク機能を活用したデモプログラム

本実証実験では、Sota（ソータ）に搭載されたネットワーク機能を活用し、ロボット本体のみならず、センサなど外部機器から取得される情報も活用します。単なる実験での運用にとどまらず、日常生活にてコミュニケーションロボットが利用される未来を想定し、言語および非言語による情報の取得、ロボット間もしくは外部センサ機器などとの機器間連携、クラウドサーバによる高度な情報処理（※1）までも視野に入れた、総合的なプログラムとなります。

（※1：本実証実験では、クラウドサーバは利用せず、専用のサーバ筐体を設置いたします）



展示イメージ

④ 「Sota（ソータ）」の主な仕様

	Intel(R) Edison 版	Raspberry Pi 版
外形	280(H)×140(W)×160(D)mm	
自由度	合計 8 自由度 (胴体 1 軸、腕 2 軸 x2、首 3 軸)	
プラットフォーム	Intel(R) Edison	Raspberry Pi2 TypeB
OS	YoctoLinux	Raspbian
素材	ABS、POM 等 (射出成形品)	
入出力	カメラ、スピーカ モノラルマイク、LED (両目×2、口×1、電源ランプ×1) スイッチ (電源ボタン、音量ボタン×2)	
インターフェイス	WiFi、Bluetooth、USB×2、 電源コネクタ、デバッグ用 USB ポート	WiFi、LAN、USB×1、HDMI 電源コネクタ
電源	AC アダプタ (12V 4A)	
開発環境	VstoneMagic、Java プログラミング	

本件に関する問い合わせ先

ヴイストーン株式会社 (<http://www.vstone.co.jp/>)

〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島 2-15-28

TEL:06-4808-8701 FAX:06-4808-8702 E-mail:infodesk@vstone.co.jp